

戸田康之さん『夢』（12月13日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日のお話は、デフリンピックについて幼稚部の子どもたちに話した時のことです。

私は今、ろう学校の幼稚部で働いています。

子どもたちに以前、お話しをしました。この夏、東京オリンピックでとても盛り上がりましたよね。その後すぐ夏休みに入ってしまったので、夏休み明けに子どもたちに話をしたんです。オリンピックのことについて、写真も使いながら、柔道や水泳、フェンシングなどで大活躍だった様子を紹介したんです。

そして、オリンピックに続いてパラリンピックが開かれることも説明しました。あ、そうだ、オリンピックの時、日本選手ではないのですが、外国人選手の中にろう者がいたんです。ベルギーの女子バスケットボールの選手にろうの選手がいたり、男子バレーボールの選手の中にもろう者がいたりなど、ろう者もいたことを話しました。すると子どもたちは目をキラキラさせていました。オリンピックには聴者だけじゃなくてろうのトップクラスの選手も出場できるのだと話すと、目を輝かせていました。

オリンピックに続いて開かれたのが、パラリンピックだという話もしました。パラリンピックには、腕がなかったり、車椅子だったり、義足で走る選手などが出場していることを話すと、子どもたちは興味深く聞いていました。でも、パラリンピックにはろう者は出場できないこと、オリンピックはいいけれど、パラリンピックは無理なのだという説明もしました。

でももう一つ、ろう者の集まるオリンピックもあって、それがデフリンピックと言うんだよと、デフリンピックのマークも紹介しました。すると子どもたちは、そのマークを見るなりこんな風にやっていたんです。手をかたどったマークを見てその形を表したんです。ブラジルで来年開かれることを話しました。子どもたちは、ろう者のオリンピックがあるんだ！と驚いていました。水泳や柔道、陸上などの競技があると説明しました。子どもたちは「水泳で出場したい」とか「走るの速いから陸上で出場するんだ」などと言っていたので、大きくなって出場できるといいねと話すと、将来の夢がふくらんだようでした。

その話をしてからしばらく経ちましたが、未だに子どもたちはデフリンピックの話をしてきます。ある女の子は、「私、デフリンピックに出る」と言ってきたんです。給食の時も、いっぱい食べて強くなるんだと、本当は嫌いな野菜が多いのに、デフリンピックに出るとい夢のために野菜も一生懸命食べていました。家でも腕立て伏せをしています。幼稚部のしかも女の子が、将来デフリンピックに出場したいからとトレーニングをしているんです。でもおかしかったのが、「私はデフリンピックに出るけど、戸田先生はどうするの？」と聞いてきたんです。なので、「先生はもう年を取ってしまって速くは走れないから、ビデオカメラ持って応援しに行くよ」と言うと「絶対来てね」と言われました。

いつか、大きくなった教え子たちがデフリンピックの選手になって、現地にその応援に行くことが私の夢です。実現するのを楽しみにしています。